

## 2018年度の主な事業報告書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

### ■ 事業実施の概要について

箕面の山麓保全を推進する中間支援組織であるNPO法人としての機能強化につとめ、山麓保全アクションプログラムに基づき、山麓部がもつ公益的な多面的価値を最大限発揮するための活動(特に災害復興や安心・安全に係る活動)を精力的に行いました。

中核事業である「山林所有者との関わり強化」では山林整備を行うボランティア派遣に注力し派遣要請件数は41件(2件増)、のべ296人(28人増)のボランティアが参加しました。特に台風の影響による風倒木処理などの活動を活発に行いました。

「資金の循環の仕組みづくり」では、山麓ファンドへの募金額は100万円に届きませんでした。11月からスタートした箕面の山災害復興募金をあわせることで約1115千円の募金をいただきました。

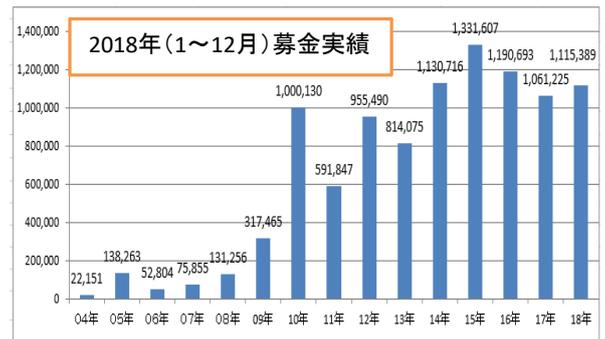
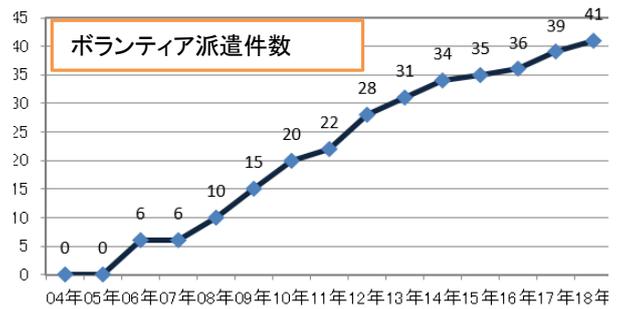
「対話と協働のネットワーク構築」では、国・府・市などの行政と市民団体の「協働」の取り組みで明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の例会を7回開催し、台風被害を受けた防鹿ネットの復旧や災害に強い森づくりのための研究を行うなど、安心・安全に関わる活動に注力しました。

「情報の共有化とPR・広報の強化」では、ホームページ(山なみネット)やニュースレター(山なみ通信)などで、災害や安心・安全に係る情報をタイムリーに発信しました。

「人材・組織の育成」では、人と自然の入門講座である「みのお森の学校」を開催しました。修了生が団体を立ち上げるなど、新たな山林整備ボランティア活動の契機となりました。

「ファンド助成」では、山林所有者や市民団体への広報や相談、事務などの助成サポート業務を行い、19件の市民団体と70件の山林所有者がファンドの助成を受けて活動しました。

又、箕面ビジターセンター企画運営事業では、プロポーザル方式による公募に応募し、事業者を選定され、2018年10月～2021年9月の期間で活動を継続することになりました。



### ■ 外部環境の課題

#### 1. 相次いで発生した自然災害の脅威

2017年10月の台風につき、2018年は、6月18日の大阪北部地震(マグニチュード6.1、最大震度6弱)や6月28日～7月8日かけて西日本中心に被害をもたらした7月豪雨、さらに9月4日に発生した台風21号など大きな自然災害が相次ぎました。

箕面でも土砂崩れや人工林の風倒木が多発し箕面公園や自然研究路が通行止めになるなど自然災害が相次ぎ、自然の脅威を思い知らされました。

地球温暖化の進行に伴った極端な気象現象が増えており、みどり豊かな住宅地に隣接する山麓部の土砂崩れや風水害など、暮らしに影響する自然災害の発生リスクが増大しています。



大日駐車場北側斜面の倒木

## 2. 森林の機能を低下させる増えすぎたシカによる被害

山の手入れをして林床に光が入り、幼苗が萌芽しても、すぐにシカに食べつくされ、一部でむき出しになった土壌が流出するなどの被害が発生しています。

国有林でも平成26年からシカ捕獲を始めましたが、14.8頭/k㎡(3,300~6,270頭)と推定されており、高密度な状態が続いています。

シカ害対策を前提として、災害に強い森づくりをどのように行うのかという難しい課題への対応が求められています。



自動撮影カメラに写ったシカ

## 3. 土砂災害防止などの機能を持つ森林整備システムの構築

箕面市の民有林面積は2,205ha、そのうち人工林面積は402ha、人工林比率は約18%、小規模で分散しており、林業経営は困難です。

平成31年4月に施行された法律では、森林の適切な管理を市町村が行うことが求められていますが、財源となる箕面市の税収は、年間約600万円と少なく、行政だけに頼ることは困難であり、山林整備ボランティアの育成や派遣など、市民が一定の役割を分担した「協働」の取り組みが必要になっています。

### ■ 内部環境の課題

#### 1. 山林整備ボランティアの不足

山林整備ボランティアの派遣は296人日(前年比110%、28人増)に拡大しましたが、山林所有者への助成金の50%が山林整備ボランティアに支払う上限となっています。

11月~翌年3月までの冬季の活動期間となりますが、期間の前倒しや楽しく活動していただくスタッフの確保や育成が課題となっています。中長期では、現在の約3倍、のべ1,000人程度の派遣が可能な仕組みの構築が求められているといえるでしょう。

#### 2. 災害に強い森づくりのための仕組みづくり

里山管理において、むやみに樹木を切っただけではいけないことは明らかになっていますが、シカの口が届かない高切りにも困難が伴い、技術的な課題が残っています。

シカ除けネットで囲うか、植樹が必要となっていますが、適地適木の選定、地域性苗木やシカ不嗜好苗木の育成など、災害に強い森づくりのための具体的なアクションと仕組みを構築することが求められています。

### ■ 個別の事業の実施状況

#### 1. 広報事業(情報の共有化とPR・広報強化の事業)

##### ①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

・自然災害が多かったことから、森の安全・安心情報(年78回)を中心として、精力的に「ブログ」を更新しました。(年193回/前年比116%)

あわせて、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、タイムリーな情報発信に努めました。

・山麓保全ファンドの助成結果やNPO山麓委員会の活動情報などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報や森の安心・安全情報などを発信しました。

・インターネット上の個人情報保護のために、SSLの暗号化機能を実装し、「https」としました。

##### ②、全世帯向け広報

・箕面市全世帯向け広報紙「もみじだより」の広告掲載を年1回行い「山麓ファンド」による山林所有者や市民団体への活動助成の他、災害に強い森づくりのための募金や山林所有者の悩み相談の他、会について広報しました。

##### ③、ニュースレターの発行

・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行し、配架すると共にNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」山麓ファンドサポート



#### ④、イベントの開催・出展

- ・11月に箕面市との共催で、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として、山とみどりの市民フェスティバルを行いました。ボランティアスタッフ150人が集まり、約2000人が参加しました。また、森の音楽会(2回)の会場などで、山麓保全活動の紹介や募金活動などを行いました。



山とみどりのフェスティバル

### 2. 山麓保全交流事業(情報の共有化と意見交換による活動の場づくり事業)

#### ①、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

- ・同協議会(国、府、市などの行政委員と12の市民団体で構成)では、NPO山麓委員会が事務局を担当して、年7回の例会を行った他、年5回の分科会(連絡会)を行いました。
- ・対話と協働の仕組みの中で、意見交換や情報の共有化を図りながら、シカの生息状況の情報共有、植生や自動撮影カメラによるモニタリング調査の他、台風で倒壊した防鹿ネットの補修、ベンチ5台設置、箕面の森の道標設置を始めるなど、活発に活動を行いました。

### 3. 山林所有者関連事業(山林所有者との関わり強化事業)

#### ①、山林所有者への対応

- ・山林所有者の山林整備活動に対する公益信託「みのお山麓保全ファンド」による助成は、個別対応に注力した結果、新規「自然緑地」の同意は2件、新規助成は3件でした。
- ※2018年度(2・8月期)助成は、70件、6,666,200円

#### ②、山林整備サポーターの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は41件(前年より2件増)の要請があり、のべ296人日(28人増)のボランティアが、主に風倒木の処理などの活動を行いました。



山林整備サポート

#### ③、山林所有者の”悩み相談会”の実施

- ・2月8日に山林所有者の”悩み相談会”を行い、3件の相談を受けました。3件は、山林整備サポート要請をされて、助成申請をされました。
- ・別途、山林を寄付したいという要望が1件あり、個別対応を継続しています。

### 4. 活動を支えるための募金活動(人と資金の循環の仕組みづくり事業)

#### ①、「山麓ファンド」への募金活動

- ・2018年(1月～12月)の募金額は、938,927円(箕面市ふるさと寄附金379千円を含む)でした。3年連続減少しましたが、箕面の山災害復興募金は176,462円であり、計1,115,389円でした。
- ・箕面公園管理事務所前に設置していた募金付き飲料自販機は、一般競争入札のために3月末をもって終了となりました。
- ・箕面駅「もみじの足湯」横の自販機は、阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクトや阪急電鉄(株)から、箕面の紅葉の保全と再生を目的に継続して募金をいただきました。(136,174円)

#### ②、箕面の山災害復興募金

- ・11月3日から、市民イベントやDVD募金、ネイチャールーム前に募金箱を設置するなど、新規に「箕面の山災害復興募金」を開始し、176,462円の募金をいただきました。
- ・山麓委員会の会計処理は、寄付金収入とせず、預り金計上とし、今後、苗木やシカ防護柵の購入などに活用する計画です。

### 5. 人材&活動組織の育成事業

#### ①、「みのお森の学校」の開催による人材育成

- ・人と自然の入門講座「みのお森の学校」、第13期生(2017年9月～2018年6月)は21人が受講しましたが、2018年9月から始まった第14期(2019年6月修了)の受講生は14名と減少しました。



箕面の山での活躍が期待される受講生の募集が課題となっています。



森の学校 実習

-3-

## ②、「山麓学習(箕面の自然学習)」を担う人材の育成

- ・山麓学習を担う人材育成活動として、スクールインタープリター養成講座(1日間の講義・実習)を行い、8人が参加・修了しました。

## ③、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

- ・2017年度の箕面生物多様性会議(生きもの会議)に続き2018年度は外院の民有地を活動拠点とした「箕面の森のきこり隊」が立ち上がりました。
- ・森の学校の修了生を中心とした「箕面の森のきこり隊」には、森林整備サポート活動における人材育成に期待がされます。



箕面の森のきこり隊の活動

## 6. 企画及び調査・研究事業

### ①、どんぐりのなる木をナラ枯れ被害から守る活動

- ・ハイキング道のコナラ(枯死するとハイカーに危険を及ぼす可能性がある)を中心に防虫ネットを巻き、被害の予防に注力しました。  
※防虫ネット施工:2018年度35本、2017年度166本、2016年度114本
- ・枯死木が激減し、南斜面山麓部では、枯死木が見つからないなどの大きな成果が得られました。  
※枯死木:2018年16本、2017年82本、2016年468本、2015年530本  
2014年377本
- ・その他、過去に設置し不要になった粘着シートや防虫ネットを取り外すなど、ハイキング道的美観に配慮した活動も行いました。※2018年4月~2019年3月延べ207人日の活動(前年は269人日)



### ②、生物多様性の保全に向けて

- ・11月11日に山とみどりのフェスティバルの一環として、自然災害を受けた箕面の山を対象に「災害に強い森づくりのために市民として何が出来るか」をテーマとした研究フォーラムを行いました。府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターの研究員の講演の他、箕面の災害の歴史や滝道復旧の写真パネル掲示などを行い、42名が参加しました。

## 7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

### ①、助成申請の受付や活動促進など

- ・「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談などの山麓ファンド助成サポート事務を行いました。  
※山林所有者への活動助成・・・2018年(2018年2月・2018年8月)計70件、6,666,200円  
※市民団体への活動助成・・・2018年(2018年2月・2018年8月)計19件、2,611,250円

### ②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓ファンド助成を受けた団体や山林所有者などの活動支援や進捗確認などを行いました。

### ③、みのお山麓ファンド助成活動の報告交流会

- ・6月24日に予定していた報告会は、6月18日に発生した大阪北部地震により中止となりました。9月30日に順延した報告会も、9月4日に発生した台風21号の影響により中止となりました。

## 8. 箕面ビジターセンター企画運営事業

ビジターセンター企画運営事業は2018年9月末までの契約でしたが、大阪府によるプロポーザル方式による公募に応募し、事業者を選定され、さらに2018年10月~2021年9月の期間で活動を継続することになりました。

### ①、自然解説活動

- ・土日・祝日を中心に8月・11月の平日を含めて、年178人/日の自然解説員を配置し、ビジター

へのハイキング道の案内や、植物や野鳥など季節の自然情報などの発信を行いました。  
 ・年37回(上期18回・下期19回)、季節の自然に親しむ観察会や自然工作教室を開催し、年間646人の参加者がありました。

-4-

・2018年度は自然災害が多く、7月豪雨による7月7日・8日の臨時休館、9月の台風21号による9月8日・9日が臨時休館となりました。  
 臨時休館により自然工作教室が2回中止となった他、自然研究路の通行止めにより、自然観察会が1回中止となりました。

・団体利用としては、3校の校外学習を受け入れ、政の茶屋園地周辺の自然観察や展示室での自然解説員の案内、講義室での自然工作教室などを行いました。  
 6月に、関西学院大阪インターナショナルスクールの小学4年生19人の校外学習を行った他、11月には箕面市豊川北小学校4年生84人、箕面こどもの森学園26人の校外学習の受け入れました。

・箕面ビジターセンターの展示室では、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。  
 ・地元写真家の協力を得て、年4回、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行し、配布しました。

※2500部×4回＝10千部

## ②、PR・広報活動

・ホームページ「山なみネット」で、箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、自然情報や安心安全情報の発信を活発に行った他、イベント開催のチラシを作成、配付しました。



箕面ビジターセンターだより

## ③、企画活動、PR・広報活動

・年9回、「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他自然情報やビジターの安心・安全情報の共有化を図りました。

## 9..「箕面の森林セラピー」の研究と人材育成

### ①、活動を担う人材の育成

・こころとからだの健康増進を目的とした森林セラピー事業を継続し、森のセラピーアシスター養成講座を4月以降、4回開催しました。

### ②、森のセラピーの開催

・上期はマンスリーセラピーを7回計画、3回実施し、10人の参加でした。フリーセラピーは1回実施し、5人の参加でした。  
 ・下期のマンスリー、フリーセラピー共に参加はありませんでした。  
 ・林野庁「森林ふれあい推進事業」は、3回企画しましたが、6月・11月の2回実施となり、参加者は計24人でした。  
 ・自然災害の影響もあり、総じて低調な参加者数でした。



森のセラピーの様子

